

自己評価報告書(最終報告)

報告者

特別支援教育専攻
／佐藤 公子

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

県人事交流規定により本年度末で退職のため、3年間にわたる計画を必要とする科研費申請は困難である。1年間で実施可能な外部資金の獲得に向けて努力したい。

2. 点検・評価

本年度末で退職のため、科研費申請の代替として学会他の公募研究等を調べたが、本年度に取り組むことのできる研究を見つけることはできなかった。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

特別支援教育専攻では学部卒業者の確保が課題となっている。そこで、本専攻では特別支援学校教諭免許の取得等が可能であることに着目し、知人を通じて他大学にレター訪問等を行う。

2. 点検・評価

アドバイザー派遣事業、教育実習業務関連の訪問先や知人を通じて、本専攻の紹介やアピールを積極的に行った。県内の他大学の教員2名を訪問し、本専攻では小学校教諭免許状や特別支援学校教諭免許状が取得可能であることを説明し、学生への周知、紹介を依頼した。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- 1) 学生が主体的に教育実習に取り組むことのできる環境づくりに努める。
- 2) 教育実習の事中指導において、実習状況や学生のニーズを把握し必要な支援を行う。
- 3) 学生の教員としての資質能力の向上を目指し、社会人として、教員として必要な態度、言動、礼儀等について指導する。

2. 点検・評価

各教育実習の事前、事中、事後指導においては、学生の状況やニーズを密に把握するよう努め附属学校や関係機関と連携し、必要に応じて個別あるいは全体に適切な支援を行った。特に、主免教育実習や教員インターンシップ、副免実習においては、専攻・コースと密に連携を図り、学生の問題解決や支援に迅速に対応し学生が教育実習に専念できるように務めた。社会人、教員として必要な態度、言動、礼儀等については、個別または全体指導を通して学生の気持ちや立場を尊重しながらも徹底した。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

- 1) 教育実習や教員養成に関する研究を進める。
- 2) 学会等に積極的に参加し、LDの指導等、特別支援教育に関する研究を進める。

2. 点検・評価

特殊教育学会や教大協の大会に参加し、特別支援教育や教員養成に関する研究を深め実地指導等に活かした。教大協に投稿した論文が採択され、『日本教育大学協会研究年報』(第31集)に掲載されることになった。日本LD学会に投稿した論文が、修正再審査となった。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- 1) 実地教育担当教員としての本務を遂行し、実地教育の円滑な運営と充実に努める。
- 2) 担当する部会や委員会に出席し審議に参画する。

2. 点検・評価

実習担当教員、教務課の実習担当者と連携協力し、教育実習の事前事中事後指導、実習先(学校、施設等)への挨拶回り等において実地教育の円滑な実施に努めた。
部会、委員会等には必ず出席し、審議に参画した。特別経費プロジェクトにおいては、教員養成モデルカリキュラム研究開発委員会委員、評価基準・評価方法開発協議会委員、教育実習関連プロジェクト委員として積極的に会議やシンポジウムに参加したり調査研究を進めたりした。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- 1) 教育実習や研究に関して附属校園との連携を密に図る。
- 2) 特別支援教育専攻主催の会や教育支援アドバイザー等の活動を通して社会貢献に努める。
- 3) 実地教育や特別支援教育に関して国際協力事業等に貢献できる機会があれば積極的に参画する。

2. 点検・評価

教育実習や研究に関して、附属校園との連携に努めた。
特別支援教育専攻主催の公開講座やアドバイザー講師の活動を通して、特別支援教育の啓発理解や特別な教育的ニーズのある子どもの支援に努めた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

本年度は、教育実習の円滑な実施に加え、実地教育新任教員への実地教育全般に関する引き継ぎを行ったこと、前述の特別経費プロジェクトにおいて、①教員養成モデルカリキュラムの発展的研究の成果報告書の「特別支援教育専修のカリキュラムマップ」、②評価基準・評価方法開発協議会報告書の「教育実習の評価について」、③附属学校における地域のセンター的機能の強化及び教育実習の充実プロジェクト研究の成果報告書の「教育実習の評価」の原稿を執筆したこと等により、大学へ貢献したものと考えらる。